市民の声（5 月分）

意見 4	H28.5.23 　当市では、人口重心付近に位置すべき市役所、市議会、中央図書館、そでがうらこども館、高速バスターミナルなどが市のはずれに偏在している。しかも市庁舎建て替えにおいても想定外の津波、高潮などで被害が想定される場所から移す発想が見られないのは市民として真に嘆かわしい。 　そもそも、市に市民が顧客だという認識がないことが問題です。市民が顧客なら、市の外れにある現在の市庁舎、総合運動場、市民会館等の敷地は売却し、人口重心（人口重心の軌跡から将来の人口重心位置の想定）土地を購入するという大胆な発想がなされるべきです。商業施設などは広く隣接市の住民も顧客とするので市の外れも問題にはならない。昭和地区も他地区と同じく、地区公民館、支所、地区図書館に必要な土地だけを残せばいい。市の財政がピンチなら、当面総合運動場の建設は見合わせる選択肢もあります。 最後にひとこと。市民の意見は、秘書課が担当課に振り分けて期限までに回答する手順になっているようですが、大胆な改革や横断的なテーマに関する意見については、危機管理上無理がありませんか。
回答	H28.6.10　担当課　行政管理課・教育総務課・秘書広報課 　この度ご意見をいただきました、市庁舎や中央図書館、そでがうらこども館、高速バスターミナルなどは人口重心付近に位置すべきとのご意見ですが、市の公共施設の多くは昭和５０年代から６０年代にかけ建設され、当時、市が所有していた土地を有効的に活用したもの等です。 　ご意見にありました教育施設のうち、総合運動場等については、昭和４６年の合併前からの構想で、当時、急激な人口増が予想される中で、住民の健康増進・レクリエーション等の性質を備えた設備が乏しいことから、総合運動場などの公共施設を一体とした整備計画として進められたものです。計画当時、周囲には土地区画整理事業その他による開発が進んでおり、市街化区域に隣接しているため住民の施設利用が容易であることや、緑の多い坂戸の森にも接していることなどから当該箇所が選定されたものです。中央図書館については、坂戸の森に隣接し緑に囲まれた静謐な環境であることや駅に近く気軽に立ち寄れることから、昭和中学校の移転に伴う旧昭和中学校跡地の有効活用として建設されたものです。なお、図書館利用希望者には、その後長浦おかのうえ図書館、平川図書館を地区別に整備しております。 　また、市庁舎につきましては、旧館は耐震強度不足や経年劣化から改築が必要という判断になりましたが、新館については耐震補強を行うことによって今後も利用可能という判断となりました。全面移転改築は費用面を考えあわせると困難という結論に至ったこと、現行の被害想定では津波や高潮の心配がないことから、現在の場所での改築を検討しているものです。 　市の公共施設の多くは老朽化が進行しており、今後建替えや大規模改修等の必要性が生じた際には、併せて施設に対する利用需要等を見極めた上で統合や廃止等の検討を行ってまいります。今回いただいたご意見はその際に参考とさせていただきますので、ご理解くださいますようお願い致します。 　なお、ご意見の中にありました総合運動場の建設については、現在市では新たな計画を予定しておりませんので、申し添えます。

	最後に、市民の声制度についてですが、市民の皆さんからお寄せいただいた意見・提言は、その内容を確認し、実際に現場で動く担当課でも把握する必要があることから、担当課へ意見・提言の振り分けを行っているところです。そして、担当課の意見も踏まえた回答文書は、最終的に私が直接目を通したうえで、市としての考えをまとめて回答させていただいております。したがって、現状のままでも危機管理上の問題はないものと考えておりますので、ご理解くださいますようお願い致します。 この度は、貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。